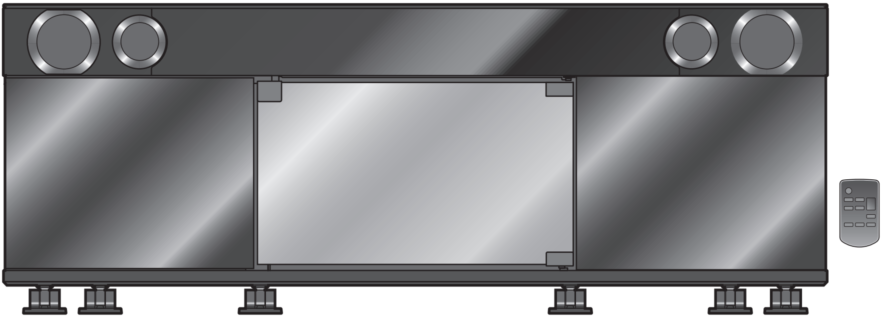
Panasonic®

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番　SC-HTX730
SC-HTX530



イラストは SC-HTX730 です。

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

・取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
・ご使用前に**「安全上のご注意」（➜ 30 ～ 33 ページ）を必ずお読みください。**
・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

VIERA Link

保証書別添付

目次

「安全上のご注意」を必ずお読みください。（→ 30 ～ 33 ページ）

はじめに

付属品 3
包装仕様図 3
各部の名前と働き 4
本体（ラック）. 4
リモコン 5

準備する

本機を設置する. .6
棚板・大を取り付ける. 7
ガラス扉を取り付ける. 9
棚板・小を取り付ける. 10
キャスターを固定する. 10
テレビを設置する .11
テレビと接続する 12
テレビの HDMI 入力に「ARC 対応」表示がある場合 12
テレビの HDMI 入力に「ARC 対応」表示がない場合 13

楽しむ

テレビや映画、音楽を楽しむ. 14
3D サウンド再生. .17
明瞭ボイスコントローラー 18
再生モード 19
ビエラリンク（HDMI）を使う 20
準備する 20
ビエラリンク（HDMI）でできること 21
必要に応じて設定する. 22

困ったときは？他

ランプの点滅について. 25
お手入れ. 25
木扉の確認と調整 25
Q&A（よくあるご質問） 26
故障かな !?. 26
仕様 28
別売品のご紹介. 29
著作権など 29
保証とアフターサービス（よくお読みください） 34

CLUB Panasonic

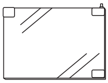
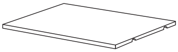
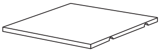
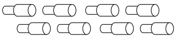
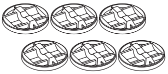
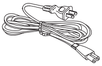
Pana Sense

付属品（➔ 3 ページ）と別売品（➔ 29 ページ）は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。
http://club.panasonic.jp/mall/sense/
携帯電話からもお買い求めいただけます。
http://p-mp.jp/cpm/

付属品

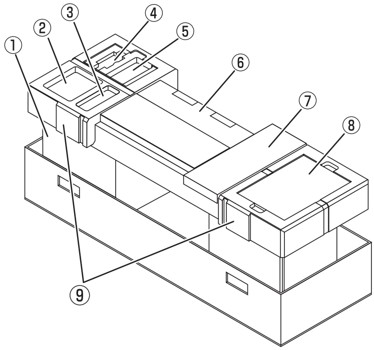
付属品をご確認ください。

【　】内は、2011 年 12 月現在の品番です。

ガラス扉 【RXQ2059】（1 枚）	
ガラス扉取り付け用金具 【RMA2380】（1 個）	
ガラス扉取り付け用ねじ 【RHD80003】（2 個）	
ガラス扉取り付け用軸受け 【RMR1858-K1】（2 個）	
棚板・大 【RKQ2G0015-K】（1 枚）	
棚板・小 SC-HTX730 【RKQ2G0016-K】(1 枚) SC-HTX530 【RKQ2G0017-K】(1 枚)	
棚板保持部品 【RMS0927】（8 個）	
キャスター座 【RKA0271-K】（6 個）	
転倒防止ねじ 【XTW4+16JFJK】（1 個）	
電源コード 【K2CA2CA00024】（1 本）	
HDMI ケーブル 【K1HA19CY0001】（1 本） （1.5 m）	
リモコン 【N2QAYC000061】（1 個） • お買い上げ時には、電池が入っています。	

- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器にには使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- イラストと実物の形状は異なっている場合があります。

包装仕様図



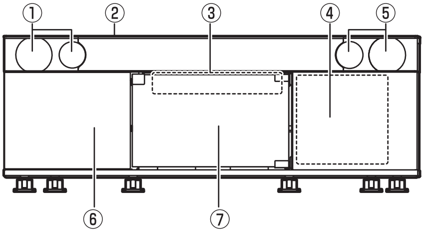
① 本体（ラック）
② HDMI ケーブル
③ 電源コード、転倒防止ねじ、棚板保持部品、ガラス扉取り付け用金具、ガラス扉取り付け用ねじ、ガラス扉取り付け用軸受け
④ リモコン
⑤ キャスター座
⑥ 棚板・大、ガラス扉
⑦ クッション（ SC-HTX730 のみ）
⑧ 棚板・小
⑨ クッション
キャスターを取り外すときに使用します。
（➔ 6 ページ）

各部の名前と働き

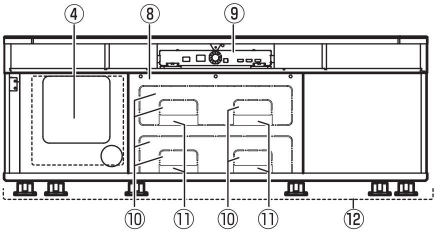
本体（ラック）

本書では、特に説明のない場合、イラストは SC-HTX730 を使用して説明しています。

■前面



■背面

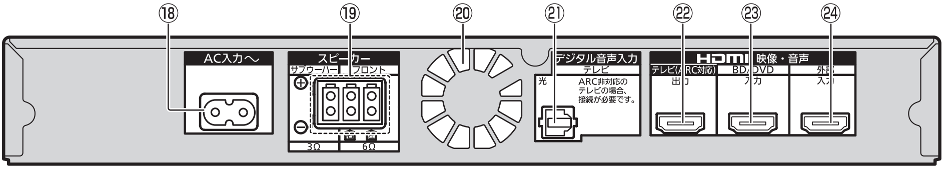


① スピーカー部（左）
② ガラス天板
③ 操作部（➜ 下記）
④ サブウーハー部
（収納庫ではありません。
開けることはできません。）
⑤ スピーカー部（右）
⑥ 収納庫（木扉）
⑦ ガラス扉
⑧ 背面板
⑨ アンプ部（➜ 下記）
⑩ 切り欠き部
⑪ 開口部
⑫ キャスター、キャスター座

■操作部（ガラス扉の内側）

⑬ ［電源 ⏻/I］
（➜ 14 ページ）
⑭ ［音量 −］［音量 +］
（➜ 15 ページ）
⑮ ［入力切換］
（➜ 14 ページ）
⑯ 入力ランプ
（➜ 14 ページ）
⑰ 音声信号ランプ
（➜ 15、16 ページ）

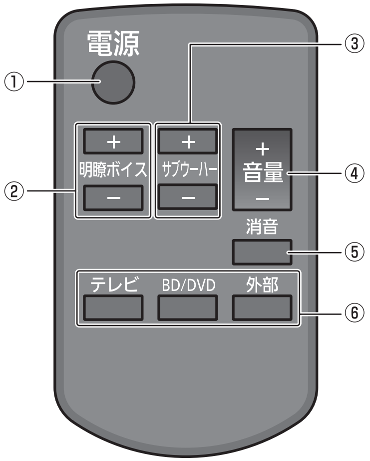
■アンプ部（背面）



⑱ AC 入力端子「AC 入力〜」
（➜ 12、13 ページ）
⑲ スピーカー端子
（➜ 13 ページ）
⑳ 排気孔（冷却ファン）
㉑ 光デジタル音声入力端子
「テレビ」
（➜ 13 ページ）
㉒ HDMI 映像・音声出力端子
「テレビ（ARC 対応）」
（➜ 12、13 ページ）
㉓ HDMI 映像・音声入力端子
「BD/DVD」
（➜ 12、13 ページ）
㉔ HDMI 映像・音声入力端子
「外部」
（➜ 12、13 ページ）

リモコン

本書ではリモコンの操作を中心に説明しています。



① [電源]
(➔ 14 ページ)

② [明瞭ボイス＋] [明瞭ボイス－]
(➔ 18 ページ)

③ [サブウーハー ＋] [サブウーハー －]
(➔ 15 ページ)

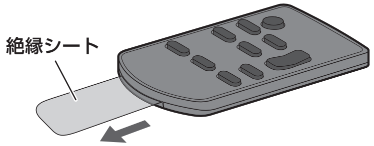
④ [＋ 音量 －]
(➔ 15 ページ)

⑤ [消音]
(➔ 15 ページ)

⑥ 入力を切り換える
(➔ 14 ページ)

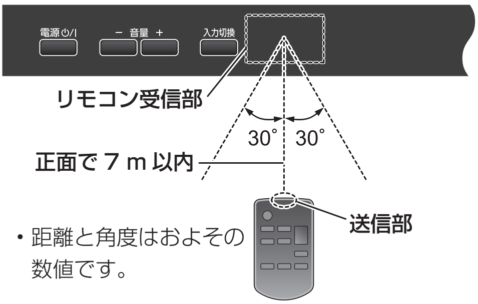
■ リモコンを使うときは

絶縁シートを引き抜いてからお使いください。



- 引き抜いた絶縁シートは、適切に処理をしてください。

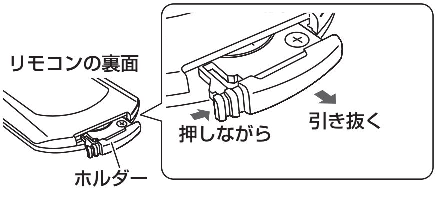
■ リモコンの使用範囲は



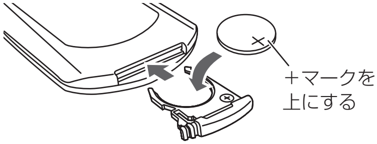
- 距離と角度はおよその数値です。

■ コイン電池を交換するときは

① ホルダーを引き抜く



② 電池を入れてホルダーを戻す



- 本体の近くでリモコンを操作しても動作しない場合は、新しいコイン電池（CR2025）と交換してください。（電池の寿命は使用頻度にもよりますが、約 1 年です。）

本機を設置する

- **本機を設置する作業は、2 人以上で行ってください。**
- **プラスドライバーを用意してください。（電動ドライバーは使用しないでください。）**
- **不安定な場所を避けて、水平な場所に設置してください。**
- **ガラス扉の取り扱いには、十分にご注意ください。**

・テレビの転倒防止などの十分な安全対策を行ってください。キャスターを付けている場合は、必ずキャスター座を敷いてください。
・本機の背面を壁に付けて設置することもできます。（設置機器の奥行きや接続ケーブルの種類によっては壁付けができない場合があります。）
・カーテンなどの前に置くときは、背面の排気孔を塞がないようにしてください。
・床材の素材によっては、キャスターの回転跡が残る場合があります。
・本機のガラス天板の上にはテレビ以外は置かないでください。
特に水の入った花瓶などは置かないでください。倒れた際、水が本機にかかり、故障の原因になります。

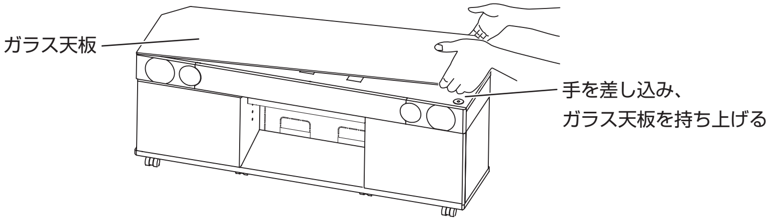
■本機の持ち上げ方

● 本機を持つときは、本機の底（キャスター取り付け面）に手を入れ、スピーカー部に触らないように持ち上げてください。

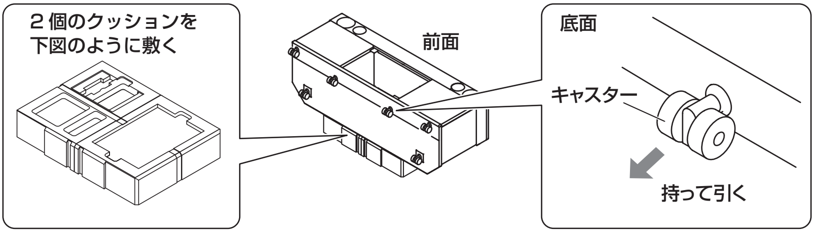
■キャスターを取り外す場合

柔らかい床材（畳、毛足の長いじゅうたんなど）の上に設置する場合は、キャスターを取り外してください。

● キャスターを取り外すときは、本機の上や中に何も置かないでください。（アンプ部やスピーカー部は固定されていますので、取り外す必要はありません。）
● **本機を傾ける前にガラス天板を取り外してください。**キャスターを取り外す間、ガラス天板は安定した場所に置いておいてください。



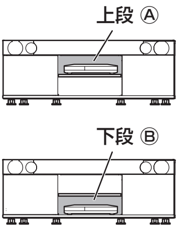
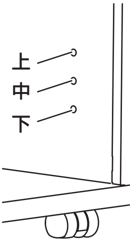
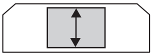
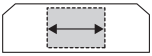
包装に使われているクッション（➜ 3 ページ：⑨クッション）、またはお手持ちの柔らかい布などを敷いてください。その上に本機の背面を下にして置き、キャスターを引き抜きます。



棚板・大を取り付ける

収納できる機器について

- 棚板・大の高さは上中下の 3 段階に調整できます。

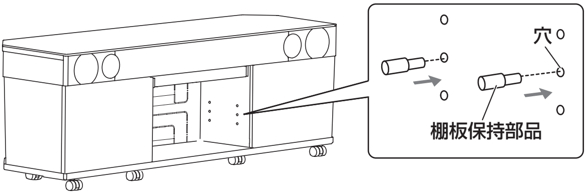
設置位置	棚板保持部品の取り付け穴位置	棚板保持部品位置	収納部高さ（単位：mm）		収納部奥行き（単位：mm）	収納部幅（単位：mm）
		上	Ⓐ	83		
			Ⓑ	145		
		中	Ⓐ	113		
			Ⓑ	115		
		下	Ⓐ	143		
			Ⓑ	85		

- 棚板上 (上段Ⓐ) と底板上 (下段Ⓑ) には、それぞれ 12 kg を超える機器を設置しないでください。
- 録画機器を棚板（上段Ⓐ）に載せると、映像に障害が出る場合があります。その場合は底板（下段Ⓑ）に設置してください。
- 収納する機器によっては、機器のコードが接続できない場合があります。切り欠き部（➔ 8 ページ）からコードが出る位置に棚板・大の高さを調整してください。

準備するもの 棚板・大、棚板保持部品（4 個）

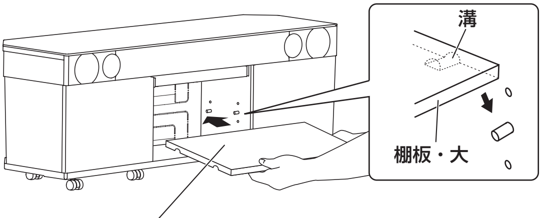
1 設置する高さの穴位置に、4個の棚板保持部品（付属）を挿入する

- 棚板保持部品は、根元まで完全に挿入してください。



2 棚板・大（付属）を水平に差し込み、棚板保持部品の上に載せる

- 棚板・大には前後はありません。



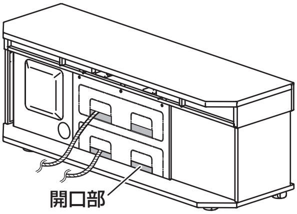
準備する

本機を設置する

本機を設置する（続き）

コードの取り出しについて（各機器の説明書もご覧ください。）

■コードを背面板の開口部から引き出した状態で、機器を棚に設置する

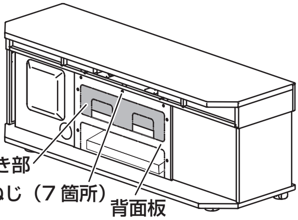


● **設置機器の奥行きに合わせて、背面板または切り欠き部を取り外してください。**
取り外さずに使用した場合、接続部に負担がかかり、故障の原因になることがあります。

- **設置機器の大きさが、幅 430 mm および奥行き 258 mm を超える場合**
  ⇒背面板を取り外し、機器を下段に設置する
  背面板を取り外すには、背面板を留めている 7 箇所のねじを取り外してください。
- **コードが太く、開口部から引き出せない場合**　⇒小窓を取り外す
- **設置機器の奥行きが 193 mm を超える場合**　⇒大窓を取り外す
  機器の奥行きが 258 mm 以下の場合、背面の端子位置や接続コードの形態により小窓の取り外しのみで設置できることがあります。大窓、小窓を取り外す前に、一度機器を設置してご確認ください。

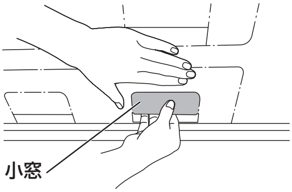
大窓を取り外して設置可能な機器の奥行き

設置位置	本機を壁などに接して設置	本機を壁などから離して設置
上段	240 mm以下	240 mm以下
下段	280 mm以下	345 mm以下



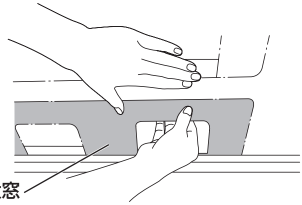
小窓の取り外し方

図のように開口部に手を入れ、小窓の中央を親指で押さえながら手前に引く。



大窓の取り外し方

小窓を取り外したあと、図のように手を入れ、点線にそって親指で押さえながら手前に引く。



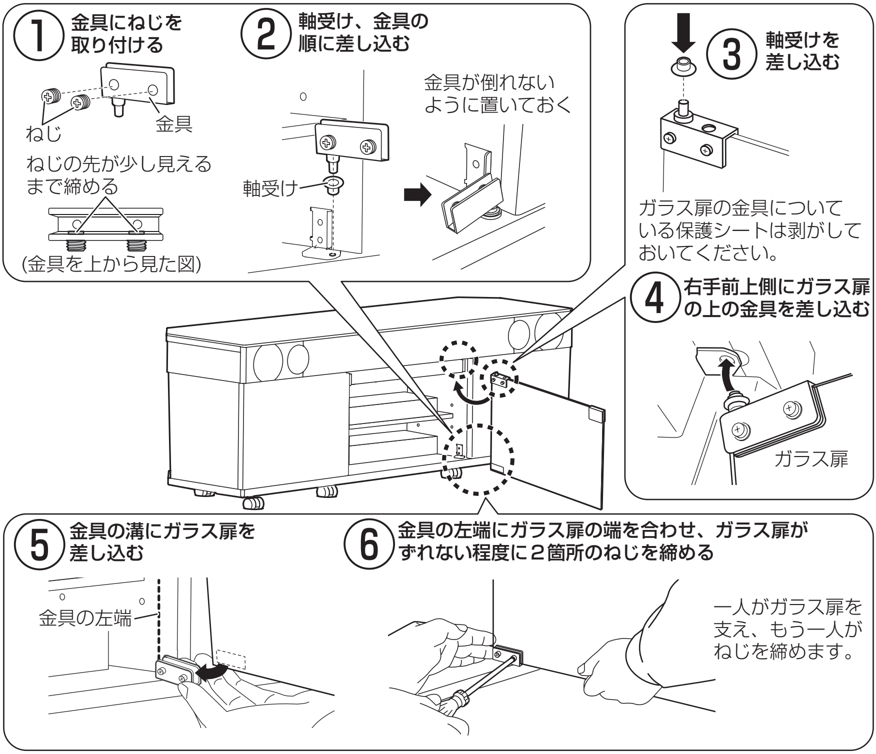
- 取り外すときは、もう一方の手で背面板がたわまないように押さえてください。
- 小窓、大窓を取り外した後に、つなぎ目部分が残ることがあります。残ったつなぎ目部分は取り除いてから設置してください。特に機器を大窓からはみ出して設置する場合は、つなぎ目部分が機器に当たらないように取り除いてください。

ガラス扉を取り付ける

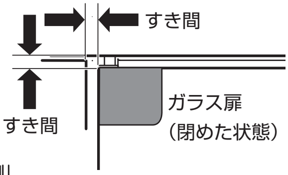
準備するもの	プラスドライバー、ガラス扉、ガラス扉取り付け用付属品（金具、ねじ（2 個）、軸受け（2 個））

- ガラス扉の取り付けは 2 人以上で行ってください。
- プラスドライバーは、ねじの大きさにあったサイズをご使用ください。

1 ガラス扉を取り付ける



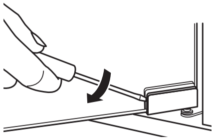
2 取り付けを確認し、金具のねじをしっかりと締める



① ガラス扉を閉めてすき間（傾き）を確認する

② ガラス扉が傾いている場合は、手順 1 の ⑥ の 2 箇所のねじを少しゆるめ、ガラス扉の傾きを直す

- ねじをゆるめてもガラス扉が金具と密着して動かない場合は、金具のねじを取り外し、外側から、金具とガラスの間にマイナスドライバーなどの先端を差し込んで回してください。



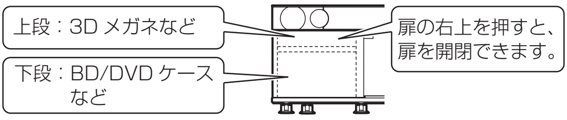
③ ねじをしっかりと締める

- **ガラス扉の内側に[電源 ⏻/I]があります。電源を入切できるように、ガラス扉の前には物を置かないでください。**
- **ガラス扉のねじ（4 箇所）は扉の開閉により緩むことがあります。扉の脱落やがたつきを防ぐため、定期的にねじの締め付けを確認し、緩んでいる場合はしっかりと締めてください。**

本機を設置する（続き）

棚板・小を取り付ける

収納できる物について

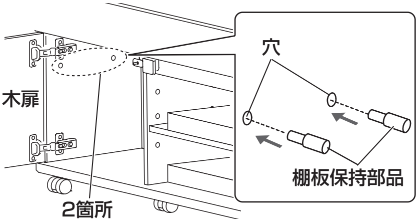


- 収納庫には、棚板上（上段）と底板上（下段）共に 12 kg までの小物などを入れることができます。
- 収納庫の上段の高さは 69 mm、下段の高さは 203 mm です。

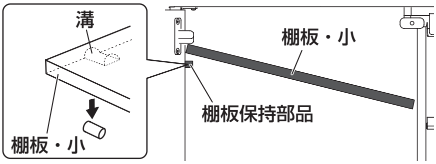
準備するもの　棚板・小、棚板保持部品（4 個）

1 木扉を開け、向かって左側の穴（2箇所）に2個の棚板保持部品（付属）を挿入する

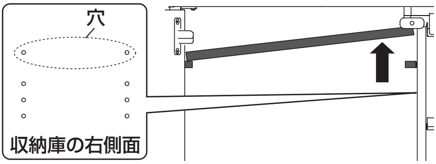
● 棚板保持部品は、根元まで完全に挿入してください。



2 棚板・小（付属）を斜めにしながら差し込み、棚板保持部品の上に載せる

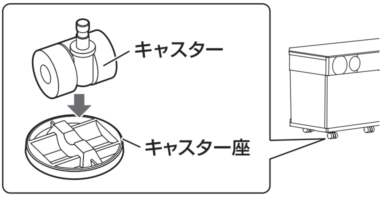


3 棚板・小を支えながら、右側の穴（2箇所）にも2個の棚板保持部品を挿入して、棚板・小が水平になるように設置する



キャスターを固定する（本機の持ち上げ方は 6 ページをご覧ください。）

■ すべてのキャスター（6 個）の下にキャスター座を敷いて固定する



（キャスターの向き）

キャスター座がはみ出さないように、前面側のキャスターを内向きに設置してください。

● 作業中に指をはさまないようにお気を付けください。

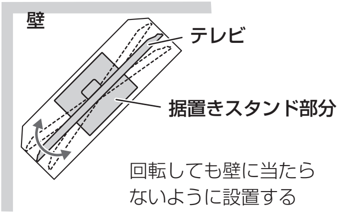
テレビを設置する（テレビの取扱説明書もご覧ください。）

■テレビの据置きスタンド部分を本機のガラス天板中央に設置する

テレビ（ビエラ）推奨画面サイズ（2011 年 12 月現在）

SC-HTX730：50 V 型以下
SC-HTX530：42 V 型以下

（設置を上から見た図）



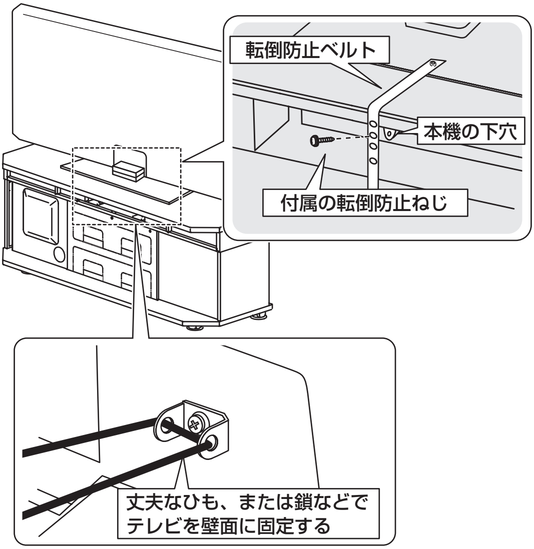
- ガラス天板には 60 kg を超える機器を設置しないでください。
- テレビは持ち上げて移動してください。引きずると本機のガラス天板を傷つけることがあります。（持ち上げ方はテレビの取扱説明書をご覧ください。）
- ガラス天板上に設置した製品のスタンド部分がガラス天板に密着し、剥がしにくい場合には、密着部に薄くて平らなものを差し込みながら持ち上げると、剥がしやすくなる場合があります。
- 本機は防磁設計ではありません。ブラウン管テレビを設置しないでください。

テレビの転倒防止について

■本機への固定

必ず本機に付属の転倒防止ねじで、転倒防止ベルト（テレビに付属）を右記のように取り付けてください。

設置例：



■壁面への固定

壁や柱の材質に適した市販のねじ、丈夫なひもまたは鎖などでしっかりと取り付けてください。
壁や柱にはテレビの重量を支えられる強度が必要です。詳しくは、専門業者などにご相談ください。

お知らせ

- テレビ側への取り付けや壁面への固定は、テレビの取扱説明書に従ってください。
- 転倒防止ベルトがテレビに付属していない場合は、市販のベルトで固定してください。
- ねじは、強く締めすぎると空回りして固定できなくなります。
- イラストはイメージですので、実際の商品と形状が異なる場合があります。

テレビと接続する

● 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
● 接続機器の取扱説明書もご覧ください。

接続の前に、テレビ（ビエラ）の HDMI 入力端子に「ARC 対応」の表示があるか確認してください。

「ARC 対応」の表示がある場合とない場合では、接続が異なります。

- **・「ARC 対応」表示あり** ⇒ Ⓐ の接続（➔ 下記）
- **・「ARC 対応」表示なし** ⇒ Ⓑ の接続（➔ 13 ページ）

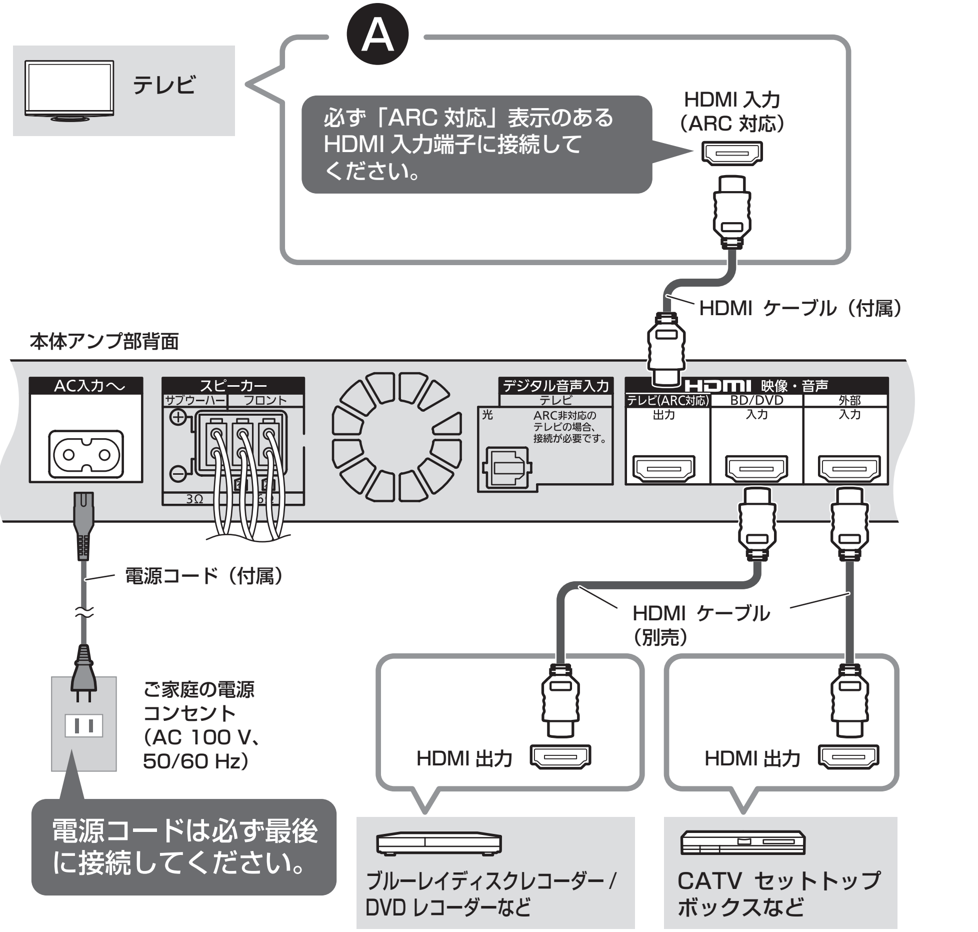
● ARC 対応 / 非対応についてはテレビの取扱説明書をご覧ください。

■ ARC（Audio Return Channel）について

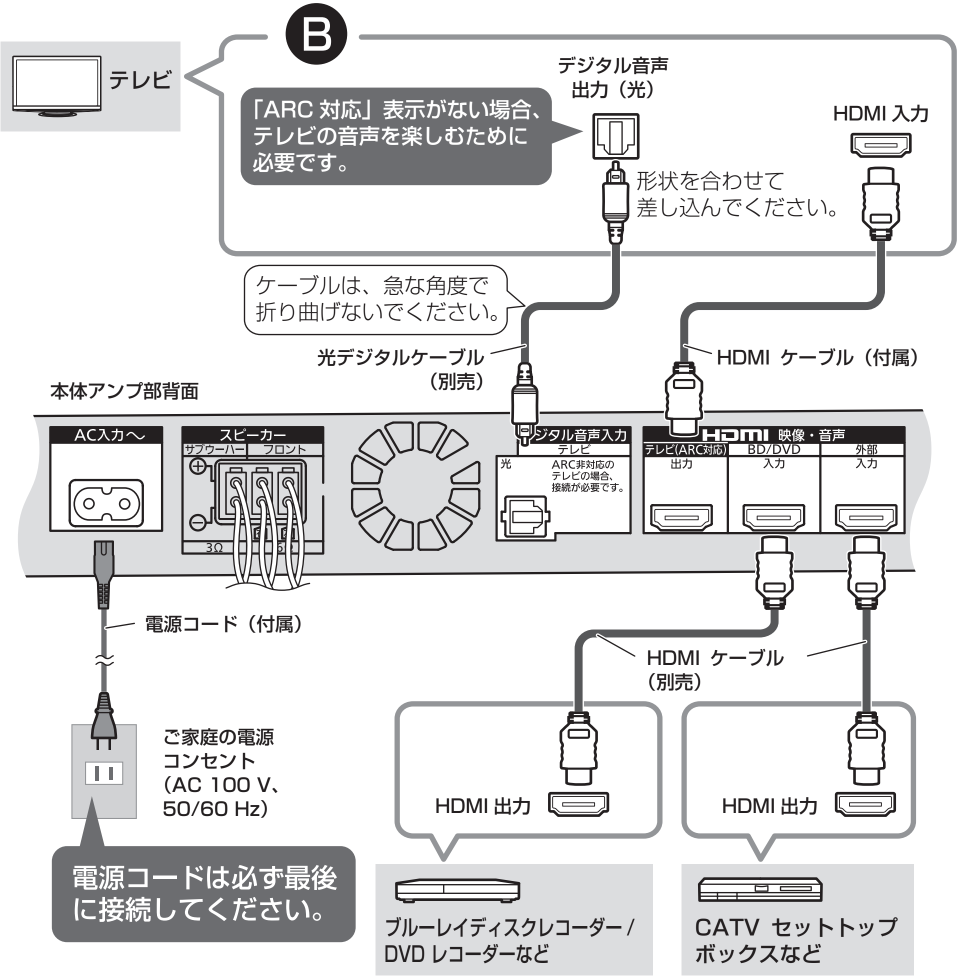
（ルビ：オーディオ リターン チャンネル）

ARC とは HDMI ARC とも呼ばれ、HDMI が持つ機能のひとつです。
テレビの「ARC 対応」の表示がある HDMI 端子と本機を HDMI 接続すると、従来テレビからの音声を聞くために必要だった光デジタルケーブルが不要になり、HDMI ケーブル 1 本でテレビの映像と音声が楽しめるようになります。

テレビの HDMI 入力に「ARC 対応」表示がある場合

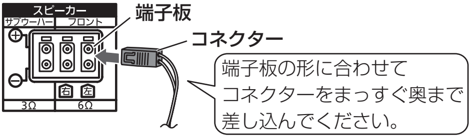


テレビの HDMI 入力に「ARC 対応」表示がない場合



■ コネクターが外れたときは

スピーカーのコネクターが外れたときは、同じ色のコネクターと端子板を接続してください。

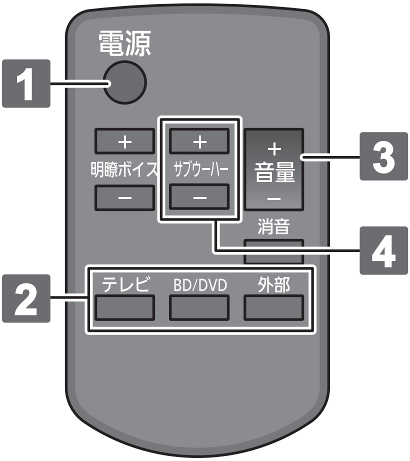


お知らせ

- 電源プラグをコンセントに接続した状態で、本機とすべての接続機器の電源が切れているときは、約 0.05 W の電力を消費しています。長期間使用しないときは節電のため抜いておくことを推奨します。電源プラグを抜くときは、必ず本機の電源を切ってから抜いてください。
- 付属以外の HDMI ケーブルをご使用される場合は、当社製 HDMI ケーブルを推奨します。品番：RP-CDHS10（1.0 m）、RP-CDHS15（1.5 m）、RP-CDHS20（2.0 m）、RP-CDHS30（3.0 m）など また、HDMI ケーブルは、「High Speed HDMI ™ケーブル」をお買い求めください。HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。

テレビや映画、音楽を楽しむ

準備	テレビの電源を入れておく



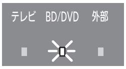
1 ［電源］を押して、本機の電源を入れる

● 本体で操作する場合は、［電源 ⏻/I］を押します。

2 ［テレビ］／［BD/DVD］／［外部］のいずれかを押して、接続している機器を選ぶ

- ［テレビ］：テレビの音声を聴く
  ［BD/DVD］：BD/DVD の音声を聴く
  ［外部］：外部入力に接続した機器の音声を聴く
- 入力ランプが点灯します。
  テレビ入力ランプ：緑色に点灯

BD/DVD 入力ランプ：オレンジ色に点灯



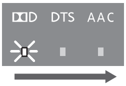
外部入力ランプ：オレンジ色に点灯

● 本体で操作する場合は、［入力切換］を数回押して、接続している機器を選びます。
●「BD/DVD」または「外部」を選択した場合は、テレビの入力を本機と接続した入力に切り換え、本機に接続している機器で再生の操作をしてください。

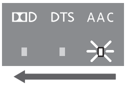
3 ［＋ 音量 －］を押して、本機の音量を調整する

- 調整範囲：0（最小）～ 100（最大）
- 操作するたびに、音声信号ランプが左から右（＋）、または右から左（－）に流れるように点滅します。

音量を上げたとき



音量を下げたとき



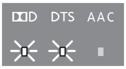
● 本体で操作する場合は、［音量 －］または［音量 ＋］を押します。

4 ［サブウーハー ＋］または［サブウーハー －］を数回押して、サブウーハーレベル（低音の量）を調整する

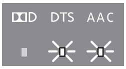
- 調整範囲：4 段階
- ［サブウーハー ＋］または［サブウーハー －］を 1 回押すと、音声信号ランプが点滅し、現在のレベルが表示されます。（初期設定：レベル 3）

レベル 1

レベル 2



レベル 3



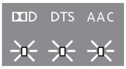
レベル 4

レベル表示中に、再度［サブウーハー ＋］または［サブウーハー －］を押すとレベルが調整できます。このとき音声信号ランプは、左から右（＋）、または右から左（－）に流れるように点滅し、その後、設定値を約 10 秒表示します。

■一時的に音を消すには

［消音］を押す

- 消音中は音声信号ランプが点滅します。



- 解除するには、再度［消音］を押します。（音量操作や電源を切 / 入しても、消音は解除されます。）

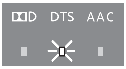
お知らせ

- 音量の調整時、最大値または最小値に到達すると、ボタンを押してもランプは点滅しません。
- 電源切時に「50」を超えた音量になっていた場合は、次回電源入時には音量が「50」に設定されます（**音量制限機能**）。（➔ 23 ページ）
- テレビのスピーカーからも音が出ている場合は、テレビの音量を最小にしてください。
- テレビと本機の音量の最大値は異なる場合があります。
- 「BD/DVD」端子または「外部」端子に接続した機器を再生中に、映像・音声をテレビに切り換えるときは、テレビの入力をテレビチューナーに切り換えてください。ビエラリンク（HDMI）（➔ 20 ページ）が有効でない場合は、本機の入力も「テレビ」に切り換えてください。
- 本機には音量は表示されません。シアターの音量表示に対応した当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせた場合には、テレビ画面に音量が表示されます。（➔ 21 ページ）
- 接続している HDMI 対応機器（ブルーレイディスクレコーダーや DVD レコーダーなど）の映像や音声は本機電源「切」時も本機を通過してテレビへ伝送されます。［BD/DVD］入力端子と［外部］入力端子の両方に機器を接続している場合、本機の電源「入」時に最後に選んでいた HDMI 入力がテレビへ伝送されます（**スタンバイパススルー機能**）。

設定や動作が分からなくなった場合は一度お買い上げ時の状態に戻してください。（➔ 26 ページ）

テレビや映画、音楽を楽しむ（続き）

■本機で再生できるデジタル信号

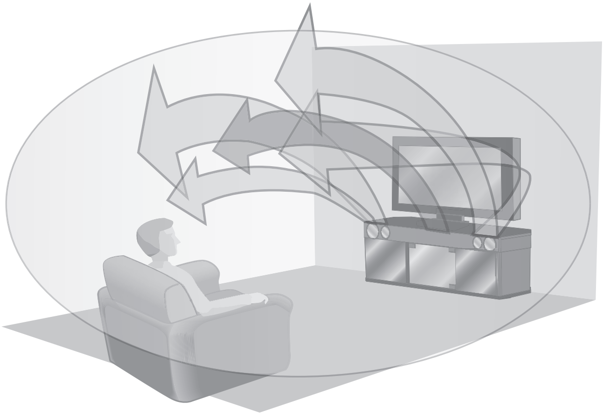
音声信号	主な音源	点灯する音声信号ランプ
ドルビーデジタル	ブルーレイディスクや DVD など	ドルビーデジタルランプ
DTS	ブルーレイディスクや DVD など	DTS ランプ 
AAC	地上デジタル放送や BS 放送など	AAC ランプ
LPCM（2 チャンネル）	CD や DVD オーディオなど	—
LPCM（マルチチャンネル）	ブルーレイディスクや DVD オーディオなど	—

● 本機は 3D に対応していますので、3D 対応テレビ、3D 対応のブルーレイディスクレコーダー / プレーヤーを本機に接続して、市販のブルーレイ 3D ディスクなどを迫力ある 3D 映像でお楽しみいただけます。

3D サウンド再生

本機では、映像と一体になった臨場感あふれる音場を楽しむことができます。お買い上げ時の設定では、すべての入力音声に対し、3D サウンドの効果が働きます。

（3D サウンド再生のイメージ図）



3D サウンド

ドルビーバーチャルスピーカー
3D サラウンド効果
明瞭ボイス効果

■ ドルビーバーチャルスピーカー

後方にスピーカーを設置しなくても、5.1 チャンネルのようなサラウンド効果を得ることができます。

■ 3D サラウンド効果

ドルビーバーチャルスピーカーに加え、上下 / 前後方向の音場を広げ、3D 映像にもマッチした奥行感や迫力のある音を実現しています。

■ 明瞭ボイス効果

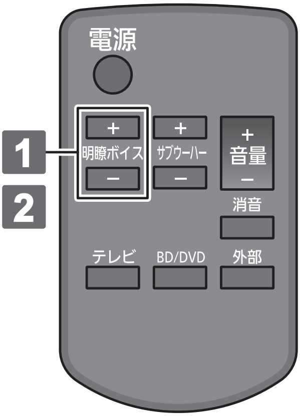
テレビ画面の方向からドラマのセリフやスポーツ中継の解説などの音声が聞こえるため、映像と一体感のある音が楽しめます。また、通常の音量時だけではなく、周囲への騒音が気になる夜間などの小音量時でも、セリフの聞き取りやすさを失わずに音声を楽しむことができます。

お知らせ

- 明瞭ボイスの効果を調整することができます。（➔ 18 ページ）
- ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果は、再生モードを変更して機能を切 / 入することができます。（➔ 19 ページ）

明瞭ボイスコントローラー

人の声をより強調して聴き取りたい場合などには、効果のレベルを強調することができます。



1 リモコンの［明瞭ボイス ＋］または［明瞭ボイス −］を押す

- 音声信号ランプが点滅し、現在のレベルが表示されます。（初期設定：レベル 2）

2 現在の設定を表示中に、再度［明瞭ボイス ＋］または［明瞭ボイス −］を押して、効果のレベルを調整する

- 調整範囲：4 段階
- このとき、音声信号ランプは、左から右（+）、または右から左（−）に流れるように点滅し、その後、設定値を約 10 秒表示します。

● 本体で操作する場合は、本体の［音量 −］と［音量 +］を同時に 2 秒以上押し、現在の設定が表示されたら再度［音量 −］または［音量 +］を押します。

お知らせ

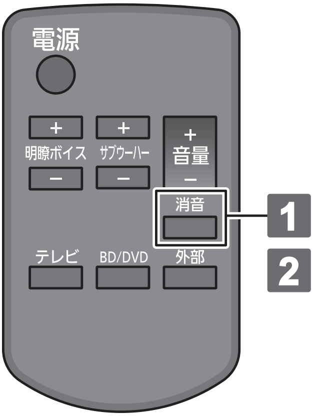
- 明瞭ボイス効果を無効にしている場合（➔ 24 ページ）は、明瞭レベルを変更しても音に変化はありません。
- 二重音声放送を「主音声＋副音声」（➔ 22 ページ）で再生している場合は、明瞭ボイスコントローラーは無効になります。
- 入力信号によっては人の声以外の音が強調される場合があります。

再生モード

お買い上げ時の設定では、ブルーレイや DVD などのマルチチャンネル音声だけではなく、テレビ放送などの2チャンネル音声に対してもドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果が働きます。
再生モードを変更することで、音声に応じて効果を選べます。

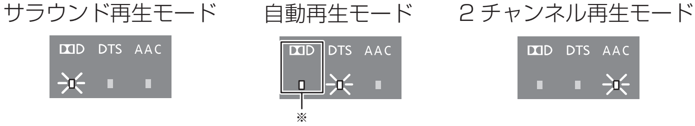
再生モード	ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果
サラウンド再生モード	すべての入力音声に対して有効にします。
自動再生モード	入力信号に応じて、ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果が自動的に設定されます。 ・マルチチャンネル音声に対して有効にします。 ・2 チャンネル音声に対して無効にします。
2チャンネル再生モード	すべての入力音声に対して無効にします。

■再生モードを切り換える



1 リモコンの［消音］を2秒以上押したままにする

• 音声信号ランプが点滅し、現在の設定が表示されます。(初期設定：サラウンド再生モード)



※ 入力音声がマルチチャンネルの場合は、ドルビーデジタルランプも同時に点滅します。

2 現在の設定を表示中に、再度［消音］を押して、再生モードを設定する

• 操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。

お知らせ

• 光デジタル接続している場合、48 kHz を超えるサンプリング周波数の信号が入力されると、ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果は、一時的に無効になります。

ビエラリンク（HDMI）を使う

ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは

本機と HDMI ケーブル（付属または別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン 1 つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
※すべての操作ができるものではありません。

- ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。
- 本機はビエラリンク（HDMI）Ver.5 に対応しています。ビエラリンク（HDMI）Ver.5 とは、従来の当社製ビエラリンク機能にも対応した最新の当社基準です。（2011 年 12 月現在）
- お使いのテレビがビエラリンク（HDMI）対応か分からないときは、機器にビエラリンク（HDMI）のロゴマーク（➜ 表紙）が付いているかをお確かめになるか、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

準備する

1 **本機とビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）などを HDMI ケーブルで接続しておく（➜ 12、13 ページ）**

- HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。

2 **テレビ（ビエラ）以外のすべての機器の電源を入れ、最後にテレビ（ビエラ）の電源を入れる**

3 **テレビ（ビエラ）の設定を以下のように変更する（機器によって表示が異なる場合があります。）**

①「電源オン時の音声出力」を「シアター」にする

（操作の一例）　メニュー画面より「設定する」→「初期設定」→「接続機器関連設定」→「ビエラリンク (HDMI) 設定」→「電源オン時の音声出力」と進み、「シアター」を選ぶ

②「音声をシアターから出す」を選ぶ

（操作の一例）　ビエラリンクボタンを押し、「音声をシアターから出す」を選ぶ

③「サウンド」を「オート」にする

（操作の一例）　ビエラリンクボタンを押し、「シアターサウンドを切り換える」を選び、「サウンド」を「オート」にする

- テレビ（ビエラ）によって操作は異なります。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。
- 「サウンド」を「オート」に設定できるのは、ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応のテレビ（ビエラ）のみです。

本機の HDMI 入力端子にレコーダー（ディーガ）などを接続している場合は、下記 4、5 も行ってください。

4 **テレビ（ビエラ）の入力を切り換え、本機を接続した HDMI 入力を選ぶ**

5 **BD/DVD 入力端子または外部入力端子に接続した機器の再生を開始し、本機の入力を [BD/DVD] または [外部] に切り換え、それぞれの画像が正しく映ることを確認する**

■ビエラリンク（HDMI）を使わないときは

「ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）」（➜ 23 ページ）

お知らせ

- 各機器がビエラリンク（HDMI）を有効にする設定になっているか確認してください。
- 機器を追加したときや接続し直したとき、工場出荷設定に戻した（➜ 26 ページ）ときにも上記の操作を行ってください。

ビエラリンク（HDMI）でできること

- テレビ（ビエラ）のリモコンで行う操作です。必ず「準備する」（➜ 20 ページ）を先に行ってください。
- テレビ（ビエラ）によって操作は異なります。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。

■本機の電源を自動で入 / 切する

テレビ（ビエラ）の電源を入にすると、本機の電源も入ります。この機能を使うには、テレビ（ビエラ）の「電源オン時の音声出力」を「シアター（AV アンプ）」に設定しておきます。切にすると、本機の電源も切れます。

■音声を本機から出すか、テレビ（ビエラ）から出すかを切り換える

本機から音声を出すときは、テレビ（ビエラ）で「音声をシアターから出す」を選択します。
テレビ（ビエラ）から音声を出すときは、テレビ（ビエラ）で「音声をテレビから出す」を選択します。

- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応のテレビ（ビエラ）と組み合わせている場合は、テレビから音声を出すように切り換えたとき、自動的に本機の電源を切る設定もできます（**こまめにオフ機能**）。

■本機の音量調整、消音をする

テレビ（ビエラ）のリモコンで本機の音量調整、消音ができます。

- 音量表示は、ビエラリンク（HDMI）Ver.5 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）で表示されます。

■音場効果を自動で切り換える（番組ぴったりサウンド）

ビエラリンク（HDMI）対応の接続機器で、デジタル放送の番組を視聴または再生中や DVD/CD/SD などを再生中に、その音場効果を自動で切り換えることができます。この機能を使うには、テレビ（ビエラ）の「サウンド」を「オート」に設定しておきます。

- テレビ（ビエラ）の「サウンド」を手動で変更すると、本機のサウンド効果を連動して切り換えることもできます。
- 「番組ぴったりサウンド」は、ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応のテレビ（ビエラ）で動作します。

■番組のジャンルに合わせて消費電力を抑える（番組連動おまかせエコ）

音量の変化が少ない番組（ドラマ、バラエティ、ニュースなど）の視聴時、自動的に消費電力を抑えます。
この機能は本機で無効に設定できます。（➜ 24 ページ）

- 「番組連動おまかせエコ」は、ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応のテレビ（ビエラ）で動作します。

■本機の入力を自動で切り換える

テレビ（ビエラ）のリモコンでチャンネル選択などの操作を行うと、本機の入力は「テレビ」になります。
「BD/DVD」端子または「外部」端子に接続した機器で再生などの操作を行うと、本機の入力は「BD/DVD」または「外部」になります。

お知らせ

- ビエラリンク（HDMI）対応のレコーダー（ディーガ）も接続している場合、テレビ（ビエラ）の電源をリモコンで切ると、レコーダー（ディーガ）の電源も自動的に切になります。
- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本機の電源を入れると、テレビ（ビエラ）が「音声をシアターから出す」設定になります。
- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応している当社製テレビ（ビエラ）と接続時に、映像が音声よりも遅れている場合に、自動的に音声を遅らせて映像に近づけます（**オートリップシンク機能**）。

必要に応じて設定する

本機を使ってテレビ、映画、音楽をお楽しみいただくに当たり、通常以下の操作は必要ありません。お使いいただく状況に応じて、必要なときに設定してください。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

■二重音声放送を切り換える

下記の操作で二重音声放送の主音声、副音声を切り換えることができます。

1 **テレビやレコーダーの音声出力がビットストリーム（AAC）に設定されていることを確認する**

2 **リモコンの［テレビ］を 2 秒以上押したままにする**

- 音声信号ランプが点滅し、現在の設定が表示されます。（初期設定：主音声）

主音声

副音声

主音声＋副音声

3 **現在の設定を表示中に、再度［テレビ］を押して、音声を切り換える**

- 操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。

■音量オート機能を使う

テレビ番組を切り替えた時などに、大きな音量の番組の場合は音量を下げ、急激な音量差を抑える機能です。
下記の操作で設定を切り換えることができます。

1 **リモコンの［外部］を 2 秒以上押したままにする**

- 音声信号ランプが点滅し、現在の設定が表示されます。（初期設定：無効）

有効

無効

2 **現在の設定を表示中に、再度［外部］を押して、機能を切り換える**

- 操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。

- 音量オート機能により、音声が聴き取りにくく感じられるような場合には、本機能を無効に設定してください。

■オートパワーオフ機能を使う

入力信号が無い状態で 2 時間以上操作をしなかった場合に、自動的に本機の電源を切る機能です。
下記の操作で設定を切り換えることができます。

1 **本体の［入力切換］を 2 秒以上押したままにする**

- 音声信号ランプが点滅し、現在の設定が表示されます。（初期設定：無効）

有効

無効

2 **現在の設定を表示中に、再度［入力切換］を押して、機能を切り換える**

- 操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。

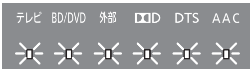
■ リモコンモードを切り換える

本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまうときは、下記の操作を行い、本体とリモコンを、「リモコンモード 2」に設定してください。

1 **他の当社製オーディオ製品の電源を切る**

2 **リモコンの［消音］と［BD/DVD］を同時に、すべてのランプが点滅するまで 4 秒以上押したままにする**

- 本体にリモコンモードが送信されます。
- すべてのランプが点滅し、約 10 秒で通常の表示に戻ります。



- 「リモコンモード 1」に戻す場合は、リモコンの［消音］と［テレビ］を同時に、すべてのランプが点滅するまで 4 秒以上押したままにしてください。

お買い上げ時に「入」になっている機能を「切」にするには

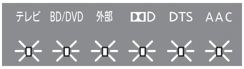
お買い上げ時には、以下の機能が働くようになっています。お使いいただく状況に応じて、これらの機能を「切」にすることもできます。

■ ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）

他社製 HDMI 対応機器との接続時に動作が不安定になる場合などに、下記の操作で、ビエラリンク（HDMI）（➔ 20 ページ）を使わない設定にできます。

1 **リモコンの［消音］と本体の［音量 −］を同時に、すべてのランプが点滅するまで 2 秒以上押したままにする**

- すべてのランプが 1 回点滅し、通常の表示に戻ります。



2 **設定変更後に、接続しているすべての機器の電源を切 / 入する**

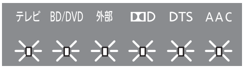
- ビエラリンク（HDMI）を無効に設定すると、ARC の機能が働かなくなります。その場合は、必ず光デジタルケーブルを接続してください。（➔ 13 ページ）
- 有効に戻すには、本機の設定をお買い上げ時の状態に戻してください。（➔ 26 ページ）

■ 音量制限機能

電源入時の音量を制限する機能です。この機能を使うと、電源切時に「50」を超えた音量になっていた場合は、次回電源入時には音量が「50」に設定されます。
下記の操作で機能を使わない設定にできます。

1 **リモコンの［消音］と本体の［音量 ＋］を同時に、すべてのランプが点滅するまで 2 秒以上押したままにする**

- すべてのランプが 1 回点滅し、通常の表示に戻ります。



- 有効に戻すには、本機の設定をお買い上げ時の状態に戻してください。（➔ 26 ページ）

必要に応じて設定する（続き）

■3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果

お好みで、3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果（➜ 17 ページ）を使わず、ドルビーバーチャルスピーカーの効果のみで楽しむことができます。

1 **リモコンの［BD/DVD］を 2 秒以上押したままにする**

- 音声信号ランプが点滅し、現在の設定が表示されます。（初期設定：有効）

有効

無効

2 **現在の設定を表示中に、再度［BD/DVD］を押して、無効に設定する**

- 操作後、約 10 秒で通常の表示に戻ります。

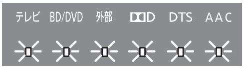
- 電源を切 / 入すると、設定は有効に戻ります。

■明瞭ボイスの小音量時の効果

明瞭ボイス（➜ 17 ページ）には小音量時に自動で声を聴き取りやすく調整する機能があります。
下記の操作で機能を使わない設定にできます。

1 **リモコンの［テレビ］と本体の［音量 −］を同時に、すべてのランプが点滅するまで 2 秒以上押したままにする**

- すべてのランプが 1 回点滅し、通常の表示に戻ります。



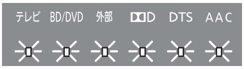
- 有効に戻すには、本機の設定をお買い上げ時の状態に戻してください。（➜ 26 ページ）

■エコ機能

本機には、音量を小さくしているときに消費電力を抑える機能（**ボリューム連動しっかりエコ**）と、番組ぴったりサウンド（➜ 21 ページ）と連動して音量変化の少ない番組（ドラマ、バラエティ、ニュースなど）の視聴時に自動的に消費電力を抑える機能（**番組連動おまかせエコ**）の 2 つのエコ機能があります。
下記の操作で、これらの機能を使わない設定にできます。

1 **リモコンの［BD/DVD］と本体の［音量 −］を同時に、すべてのランプが点滅するまで 2 秒以上押したままにする**

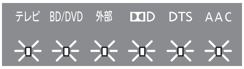
- すべてのランプが 1 回点滅し、通常の表示に戻ります。



- 有効に戻すには、本機の設定をお買い上げ時の状態に戻してください。（➜ 26 ページ）

ランプの点滅について

本機の状態は、各ランプの点滅によって示されます。下記に挙げる点滅はシステムの正常な動きを示しており、故障などの異常を示すものではありません。下記と各操作および設定に表示される（➔ 14 ～ 16、18、19、22 ～ 24 ページ）以外の点滅が表示された場合は、「故障かな !?」を参照してください。（➔ 26、27 ページ）

点滅箇所	状態
	音声信号ランプが同時に点滅する • 消音になっています。（➔ 15 ページ）
	**すべてのランプが点滅する** • リモコンモードを切り換えました。（➔ 23 ページ） **すべてのランプが 1 回点滅する** • ビエラリンク、音量制限機能、明瞭ボイスの小音量時の効果、エコ機能（ボリューム連動エコ、番組連動おまかせエコ）のいずれかを無効にしました。（➔ 23、24 ページ）

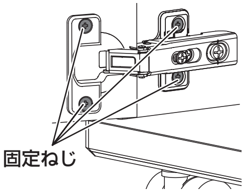
お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 汚れがひどいときは、水に浸した布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

木扉の確認と調整

■定期的にねじの締め付けを確認する

木扉の固定ねじ（8 箇所）は扉の開閉により緩むことがあります。扉の脱落やがたつきを防ぐため、定期的に固定ねじの締め付けを確認し、緩んでいる場合はしっかりと締めてください。



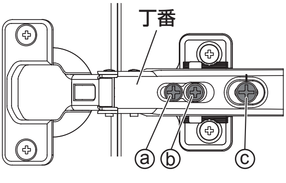
■木扉に傾きなどがある場合

固定ねじ（➔上記）がしっかりと締め付けられていることを確認後、上下の丁番にあるⓐ、ⓑ、ⓒを調整してください。ⓑ、ⓒは、最後に調整ねじをしっかりと締めてください。

ⓐ 左右方向調整ねじ
(初期状態の調整範囲：左へ 0 mm、右へ 4 mm)
ねじを左へ回すと扉は右へ動きます。
初期状態では扉を左へ動かすことはできません。

ⓑ 上下方向調整ねじ
(初期状態の調整範囲：上下へ各 3 mm)
上下の丁番のねじを緩め、扉を動かしたい方へずらしてください。

ⓒ 前後方向調整ねじ
(初期状態の調整範囲：前後へ各 2.5 mm)
ねじを緩め、扉を動かしたい方へずらしてください。



Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
長時間使用すると、本機が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、背面の排気孔を物で塞ぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
サラウンドスピーカーを追加して接続できるか。	本機ではできません。
他のアンプやスピーカーを接続できるか。	本機ではできません。
接続機器に HDMI 出力端子やデジタル音声出力（光）がない。	本機には接続できません。

故障かな !?

故障かな？と思ったら以下の項目を確かめてください。それでも直らないときや、症状が載っていないときは販売店にご相談ください。

本機の設定をお買い上げ時の状態（工場出荷設定）に戻すには

本機の動作がおかしいと思われる場合、一度お買い上げ時の状態に戻すと、症状が改善されることがあります。

① **電源入の状態で、本体の［電源 ⏻/I］を 4 秒以上押したままにする**

② **すべてのランプが 2 回点滅し、通常の表示に戻ることを確認する**

- お買い上げ時の設定に戻ります。
- 「リモコンモード 2」に設定していた場合は、本体のリモコンモードが「リモコンモード 1」に戻りますので、リモコンモードを再設定してください。（➔ 23 ページ）

共通

電源が入らない。

- 電源プラグがコンセントに正しく接続されていますか。（➔ 12、13 ページ）
- 本体またはリモコンで電源を入れても本体のランプが点滅し、すぐに電源が切れてしまう場合は、電源プラグを抜き、販売店にご相談ください。

リモコンが働かない。

- 電池が消耗している場合は電池を交換してください。（➔ 5 ページ）
- 絶縁シートを抜いてください。（➔ 5 ページ）
- リモコンが正しく働く範囲でお使いください。（➔ 5 ページ）
- 電池交換後、リモコンモードの再設定が必要な場合があります。（➔ 23 ページ）

本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまう。

- 本体とリモコンを、「リモコンモード 2」に設定してください。（➔ 23 ページ）

テレビ入力ランプが点滅し、音が出ない。

- 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。他のランプも点滅している場合は、どのランプかをお知らせください。

点灯・点滅していた本体のランプが消えてしまった。

- 本機ではランプの点灯・点滅によって機能の状態を一定時間表します。点灯・点滅後に消灯しても本機の故障ではありません。

テレビから音声を出す設定にすると、本機の電源が切れてしまった。

- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせると、こまめにオフ機能が働く場合があります。（➔ 21 ページ）

HDMI

正常に動作しない。

- HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続していませんか。電源を切り、電源プラグを抜いてから接続し直してください。（➔ 12、13 ページ）

ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。

- 接続した機器のビエラリンク（HDMI）設定を確かめてください。
- ビエラリンク（HDMI）の機能を切っていませんか。（➔ 23 ページ）
- HDMI 機器の接続変更、停電、電源プラグの抜き差しが原因の可能性があります。以下を試してみてください。
  - HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。
  - テレビ（ビエラ）のビエラリンク（HDMI）の設定を一度切にした後、再度入れ直す。
    詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。
  - テレビ（ビエラ）と本機を HDMI ケーブルで接続してテレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本機の電源プラグを一度抜いてから接続し直す。

HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。

- DVD をチャプターから再生した場合に起こることがあります。接続した映像機器のデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。

他社製 HDMI 対応機器（テレビやブルーレイディスクレコーダーなど）との接続時に、動作が不安定になる。

- ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にしてください。（➔ 23 ページ）

外部入力ランプが点滅し、音が出ない。

- HDMI接続で異常があります。以下を試してみてください。
  - 接続機器の電源を切 / 入する。
  - HDMI ケーブルを抜き差しする。

それでも直らないときは、販売店にご相談ください。

音声

機器の再生を始めても音が出ない。

- 本機の電源を切 / 入してください。
- 消音になっている場合、消音を解除してください。（➔ 15 ページ）
- 機器が正しく接続されているか確認してください。（➔ 12、13 ページ）
- 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。（➔ 16 ページ）
- テレビと HDMI 接続をしている場合は、テレビの HDMI 端子に「ARC 対応」と表示されているか確認してください。表示がない場合は、HDMI ケーブルに加えて光デジタルケーブルを接続してください。（➔ 13 ページ）
- 当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合、本体またはリモコンで本機の電源を入れると、本機から音が出ない場合があります。ビエラリンクを使用し、テレビ（ビエラ）のリモコンによる電源操作を行ってください。（➔ 20 ページ）
- 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。
- 入力信号を正しく選択してください。
- BD/DVD ランプが点滅し、音が出ない場合は、以下の処置をしてください。
  ① 接続した機器の電源を切 / 入する
  ② 本機の電源を切り、HDMI ケーブルを抜き差しした後、再度電源を入れる

デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。

- テレビ / レコーダーの音声出力がビットストリーム（AAC）に設定されているか確認してください。

電源を入れたとき、勝手に音量が「50」になってしまう。

- 本機には、過大出力を制限する「音量制限機能」があります。この機能を使わない設定にできます。（➔ 23 ページ）

小音量時に声が強調されすぎたり、声の質に違和感があったりする。

- 本機には、小音量時にさらに声を聴き取りやすくする機能があります。違和感などがある場合には、この機能を使わない設定にできます。（➔ 24 ページ）

音が出なくなった。電源が勝手に切れる。（本機は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります。）

- アンプの出力異常です。音量を下げ、電源を切 / 入してみてください。
- 著しく大きな音で聞いていませんか。または異常に暑い場所で使用していませんか。
  ⇒ 音量を下げるなどして原因を解消し、電源プラグを抜き、しばらくたってから再び電源プラグを差し込み、電源を入れてください。（保護回路の動作が解除されます。）

それでも同じ現象が起こる場合は、電源を切り、電源プラグを抜いた後、販売店にご相談ください。ランプが点滅しているときは、そのランプの位置をお知らせください。

地上デジタル /BS 放送の番組で始めの数秒間の音声が再生されない。

- テレビ（ビエラ）の設定で「デジタル音声出力」を「PCM」または「AAC」に変更してみてください。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。

仕様

■アンプ部

実用最大出力合計値

120 W（非同時駆動、JEITA）

実用最大出力

フロント（左 / 右） 30 W + 30 W

（1 kHz、6 Ω、非同時駆動、JEITA）

サブウーハー 60 W

（100 Hz、3 Ω、非同時駆動、JEITA）

負荷インピーダンス

フロント（左 / 右） 6 Ω

サブウーハー 3 Ω

信号対雑音比（SN 比）

BD/DVD、テレビ、外部 96 dB

入出力端子

デジタル音声入力	
光（テレビ）	1
映像・音声	
HDMI 入力（BD/DVD、外部）	2
HDMI 出力（テレビ（ARC 対応））	1

本機は、ビエラリンク Ver.5 に対応しています。

■スピーカーシステム部

フロントスピーカー部（左 / 右）

1 ウェイ 1 スピーカーシステム（バスレフ型）

6.5 cm コーン型フルレンジ × 2

サブウーハー部

1 ウェイ 2 スピーカーシステム（バスレフ型）

12 cm コーン型ウーハー × 2

■総合

電源 AC100 V、50/60 Hz

消費電力（本体） 37 W

電源スタンバイ時の消費電力 約 0.05 W
（すべての接続機器の電源：「切」）

寸法（幅×高さ×奥行）

SC-HTX730
1200 mm × 450 mm × 390 mm

SC-HTX530
1030 mm × 450 mm × 370 mm

質量

SC-HTX730 約 35 kg

SC-HTX530 約 29 kg

耐荷重量 60 kg

棚板耐荷重

上段 12 kg

下段 12 kg

■動作使用条件

周囲温度 0℃～ 40℃

相対湿度 20%～ 80% RH（結露なきこと）

• この仕様は、性能向上のために変更することがあります。

別売品のご紹介

2011 年 12 月の品番です。

ケーブル名	長さ	品　番
HDMI ケーブル	1.0 m	RP-CDHS10
	1.5 m	RP-CDHS15
	2.0 m	RP-CDHS20
	3.0 m	RP-CDHS30

ケーブル名	長さ	品　番
光デジタルケーブル	0.5 m	RP-CA2005
	1.0 m	RP-CA2010
	1.5 m	RP-CA2015
	2.0 m	RP-CA2020
	3.0 m	RP-CA2030

著作権など

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許番号：5,956,674; 5,974,380; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTS、シンボルマークおよび DTS とシンボルマークとの複合ロゴは DTS, Inc. の登録商標です。DTS Digital Surround および DTS ロゴは DTS, Inc. の商標です。製品はソフトウェアを含みます。© DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国における HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

HDAVI Control™ は商標です。

ーこのマークがある場合はー

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■**誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。**

⚠ **警告**	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ **注意**	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■**お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。**（次は図記号の例です）

🛇	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。
⚠	気をつけていただく内容です。

⚠ 警告

異常・故障時には直ちに使用を中止する

異常があったときには、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- **煙が出たり、異常なにおいや音がする**
- **音声が出ないことがある**
- **内部に水や異物が入った**
- **電源プラグが異常に熱い**
- **本体に変形や破損した部分がある**

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

- 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

⚠警告

回転機能付の据置スタンド搭載のテレビ使用時は、回転範囲内に手や物を置かない

指をはさんでけがの原因になります。

- 特にお子様にはご注意ください。

コイン電池やガラス扉取り付け用金具、ガラス扉取り付け用ねじ、ガラス扉取り付け用軸受け、棚板保持部品、転倒防止ねじは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

設置したテレビがはみ出した場合、当たらないようにする

倒れたり、破損してけがの原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

テレビは転倒防止の処置をする

地震やお子様がよじ登ったり、背面よりもたれたりすると、転倒しけがの原因になります。

- 安全のため、必ずキャスター座を取り付け、転倒防止ベルトでテレビとラックを固定してください。
- テレビは、壁にも固定してください。

回転機能付の据置スタンド搭載のテレビ使用時は、テレビが壁に当たらないようにラックを壁から離して設置する

指をはさんでけがの原因になります。

- 特にお子様にはご注意ください。

テレビはラック天板の中央に設置する

ラック天板よりはみ出して設置すると、落ちたりしてけがの原因になります。

⚠注意

万一、ラックやガラスに変形・ひび割れ・割れが起こった場合は、使用しない

そのまま使用すると倒れたり、破損してけがの原因になることがあります。

- すぐに販売店へご連絡ください。

ラックの移動や設置時に、ラック下部のすき間内に足先を入れない

けがの原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

ラックやガラス天板の上に乗ったり、座ったりしない

落ちたりして、けがの原因になることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、火災の原因になることがあります。

- 背面の排気孔をふさがないでください。
- また、外装ケースが変形する原因にもなりますのでご注意ください。

異常に温度が高くなるところに置かない

温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。

- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。
- また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

キャスター（車）には注油しない

キャスター（車）のひび割れ、破損の原因となり、倒れたり破損してけがの原因になることがあります。

ガラス天板・棚板・底板には指定した質量以上の機器を載せない

ラックに載せられる質量を超えて長期間使用されますと、破損してけがの原因となることがあります。

- ガラス天板は 60 kg、棚板･大と底板、棚板･小は 12 kg を超える機器を載せないでください。
- ガラス天板には、テレビ以外の物を置かないでください。

⚠注意

ガラスを傷つけたり、衝撃を与えない

ガラスは強化ガラスです。使いかたを誤ると割れるおそれがあり、けがの原因になることがあります。

- 鋭利なものや、とがったものなどで傷をつけないでください。
- 強化処理をしたガラスは、傷が入った状態で長期間ご使用になりますと、傷が進行し自然に破損することがあります。
- 傷が入った場合は、販売店に相談して、新しいガラスと取り替えてください。

コイン電池は誤った使いかたをしない

- **指定以外のコイン電池を使わない**
- **⊕ と ⊖ は逆に入れない**
- **加熱・分解したり、水などの液体や火の中に入れたりしない**
- **ネックレスなどの金属物といっしょにしない**

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

ラックの上に時計等の磁気の影響を受けやすいものを置かない

正常に動作しなくなる場合があります。

キャスター付きラックを移動するときは、キャスター座を取り外す

キャスター座を取り付けたまま移動すると、倒れたり、破損してけがの原因になることがあります。

- 段差のあるところやじゅうたんなどの柔らかいところでは、特にご注意ください。
- キャスター座の取り外しは、必ず本文の説明に従って行ってください。

ラックを搬送したり、キャスターを取り外してラックを移動するときは、必ず指定された部分を持って行う

指定された部分以外を持って移動すると、けがの原因になることがあります。

- 持ちかたについては、必ず本文の説明に従って行ってください。

設置や移動、キャスター座の取り付けは２人以上で行う

１人で無理に行うと、腰を痛めたり、けがの原因になることがあります。

- キャスター座の取り付けは、必ず本文の説明に従って行ってください。

スピーカーは内蔵のものを使用する

内蔵以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

ラックの設置時や扉の開閉時には、指をはさまれないように注意する

けがの原因になることがあります。

指はさみ注意

- 扉の開閉はゆっくりとしてください。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

使いかた・お手入れ・修理 などは

■ まず、お買い求め先へご相談ください。

▼ お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名				
電　話	（　　　）	−		
お買い上げ日		年	月	日

修理を依頼されるときは

「故障かな !?」（➜ 26、27 ページ）でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下記の内容をご連絡ください。

● **製品名**　ホームシアターオーディオシステム

● **品番**　□ SC-HTX730 □ SC-HTX530
お買い上げの品番に記入してください。

● **故障の状況**　できるだけ具体的に

● **保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。**
保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

● **保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。**

※ 修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	診断・修理・調整・点検などの費用
部品代	部品および補助材料代
出張料	技術者を派遣する費用

※ **補修用性能部品の保有期間** 8 年

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

■ 転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください。

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

● **使いかた・お手入れなどのご相談は……**

パナソニック お客様ご相談センター

電 話　365日 受付9時～20時
フリーダイヤル（携帯・PHS OK）**0120-878-365**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

● **修理に関するご相談は……………………**

パナソニック 修理ご相談窓口

電 話
フリーダイヤル（携帯・PHS OK）**0120-878-554**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

■各地域の 修理ご相談窓口　※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

• 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

地区	電話番号	所在地
北海道地区		
札 幌	☎(011)894-1251	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7
旭 川	☎(0166)22-3011	旭川市2条通16丁目1166
帯 広	☎(0155)33-8477	帯広市西20条北2丁目23-3
函 館	☎(0138)48-6631	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）
東北地区		
青 森	☎(017)775-0326	青森市大字浜田字豊田364
秋 田	☎(018)868-7008	秋田市外旭川字小谷地3-1
岩 手	☎(019)645-6130	盛岡市厨川5丁目1-43
宮 城	☎(022)387-1117	仙台市宮城野区扇町7-4-18
山 形	☎(023)641-8100	山形市平清水1丁目1-75
福 島	☎(024)991-9308	郡山市亀田1丁目51-15
首都圏地区		
栃 木	☎(028)689-2555	宇都宮市上戸祭3丁目3-19
群 馬	☎(027)254-2075	前橋市箱田町325-1
茨 城	☎(029)864-8756	つくば市筑穂3丁目15-3
埼 玉	☎(048)728-8960	桶川市赤堀2丁目4-2
千 葉	☎(043)208-6034	千葉市中央区末広5丁目9-5
東 京	☎(03)5477-9700	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
山 梨	☎(055)222-5822	甲府市宝1丁目4-13
神奈川	☎(045)847-9720	横浜市港南区日野5丁目3-16
新 潟	☎(025)286-0180	新潟市東区東明1丁目8-14
中部地区		
石 川	☎(076)280-6608	金沢市玉鉾2丁目266番地
富 山	☎(076)424-2549	富山市根塚町1丁目1-4
福 井	☎(0776)21-0622	福井市問屋町2丁目14
長 野	☎(0263)86-9209	松本市寿北7丁目3-11
静 岡	☎(054)287-9000	静岡市駿河区高松2丁目24-24
愛 知	☎(052)819-0225	名古屋市瑞穂区塩入町8-10
岐 阜	☎(058)278-6720	岐阜市中鶉4丁目42
三 重	☎(059)254-5520	津市久居野村町字山神421
近畿地区		
滋 賀	☎(077)582-5021	守山市水保町1166番地の1
京 都	☎(075)646-2123	京都市南区上鳥羽中河原3番地
大 阪	☎(06)7730-8888	大阪市城東区関目2丁目15-5
奈 良	☎(0743)59-2770	大和郡山市筒井町800番地
和歌山	☎(073)475-2984	和歌山市中島499-1
兵 庫	☎(078)796-3140	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4
中国地区		
鳥 取	☎(0857)26-9695	鳥取市安長295-1
米 子	☎(0859)34-2129	米子市米原4丁目2-33
松 江	☎(0852)23-1128	松江市平成町182番地14
出 雲	☎(0853)21-3133	出雲市渡橋町416
浜 田	☎(0855)22-6629	浜田市下府町327-93
岡 山	☎(086)242-6236	岡山市北区野田3丁目20番8号
広 島	☎(082)295-5011	広島市西区南観音1丁目13-5
山 口	☎(083)973-2720	山口市小郡下郷220-1
四国地区		
香 川	☎(087)874-3110	高松市国分寺町国分359番地3
徳 島	☎(088)624-0253	徳島市沖浜2丁目36
高 知	☎(088)834-3142	高知市仲田町2-16
愛 媛	☎(089)905-7544	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1
九州地区		
福 岡	☎(092)593-8002	春日市春日公園3丁目48
佐 賀	☎(0952)26-9151	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044
長 崎	☎(095)830-1658	長崎市東町1919-1
大 分	☎(097)556-3815	大分市萩原4丁目8-35
宮 崎	☎(0985)63-1213	宮崎市本郷北方字草葉2099-2
熊 本	☎(096)367-6067	熊本市健軍本町12-3
鹿児島	☎(099)250-5657	鹿児島市与次郎1丁目5-33
大 島	☎(0997)53-5101	奄美市名瀬朝仁町11-2
沖縄地区		
沖 縄	☎(098)877-1207	浦添市城間4丁目23-11

所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。
最新の「各地域の修理ご相談窓口」はホームページをご活用ください。
http://panasonic.co.jp/cs/service/area.html

0511

会員サイト「CLUB Panasonic」で「ご愛用者登録」をしてください

PC **http://club.panasonic.jp/** 携帯

※このサービスは WEB 限定のサービスです。

● 使いかた・お手入れなどのご相談は……

パナソニック 総合お客様サポートサイト

http://panasonic.co.jp/cs/

パナソニック お客様ご相談センター

電 話　365日 受付9時～20時

フリーダイヤル（携帯・PHS OK） **0120-878-365**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

音声ガイダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの「87」と「130 #」を押してください。
（番号を押しても案内が続く場合は、「＊」ボタンを押してから操作してください。）

■上記番号がご利用いただけない場合　**06-6907-1187**

■FAX　フリーダイヤル　**0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan

Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787

Open : 9:00 - 17:30

(closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

● 修理に関するご相談は……………………

パナソニック 修理サービスサイト

http://club.panasonic.jp/repair/

インターネットでのご依頼も可能です。

パナソニック 修理ご相談窓口

電 話

フリーダイヤル（携帯・PHS OK） **0120-878-554**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

愛情点検　**長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を！**

こんな症状はありませんか	• 煙が出たり、異常なにおいや音がする • 音声が出ないことがある • 内部に水や異物が入った • 本体に変形や破損した部分がある • その他の異常や故障がある	**ご使用中止**	**故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。**

パナソニック株式会社　ホームエンターテインメント事業部
〒 571 － 8504　大阪府門真市松生町 1 番 15 号

© Panasonic Corporation 2011-2014

VQT3W87-3
M1211KZ3044